様式１－１

［概要報告書］

実践校に関する事項

学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立向陽高等学校	松本　泰幸

学校所在地

（〒 640－8323）　和歌山県和歌山市太田127
Tel 073（471）0621　　**fax** 073（471）6163

担当者名	役職名・担当教科
亀岡　靖典	特別活動部・英語科

〔学校の概要〕

令和7年に創立110周年を迎えた歴史と伝統のある県立学校で、地域の進学校の１つである。平成18年度より文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定校となり、理科・数学等に重点を置いたカリキュラムの開発と実践を行い、令和5年度よりSSH指定校第Ⅳ期に入り、生徒の新しい学びにつながる「探究型授業」や「教科横断型授業」の研究に取り組んでいる。また、国際交流活動も活発に行っており、イギリスと台湾にある海外姉妹校との交流を通して、国際性の向上と異文化理解教育を推し進めている。本年度は教育重点目標の1つとして、生徒の全人的な成長に向けて、知識の獲得にとどまらず、「次の一歩」につなげるようことを奨励している。次世代育成事業で得られる生徒達が特別な体験を通して、視野を広げ多様な考え方学ぶだけでなく、自主的な活動により自己実現や進路実現に繋がるように取り組んでいる。

研究実践に関する事項

対象者生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年　１、２　年生　　２５　名	**１０　名　　職員　２　名**	本校（情報教室、視聴覚教室）、女人道、壇上伽藍

実践研究テーマ

探究活動を通した世界遺産学習とふるさと教育の融合

実践分掌等名	単元名
特別活動部　英語部　新聞部	世界遺産　　道普請　　英語発表　　英字新聞

〔キーワード〕　世界遺産、探究活動、ふるさと教育、環境保全、英語

〔単元目標〕

向陽高校特別活動部によって企画された「高野山研修」で、英語部と新聞部の部員と１、２年生で世界遺産や探究活動に関心がある生徒を対象に「①2016年に世界遺産に追加登録された高野参詣道の1つである女人道を実際歩いて、②道普請を通して文化遺産の保護の意識を高め、③その遺産の現状と価値を学び、生徒各々が興味を持ったことを探究学習し、④生徒の自己実現や進路実現に繋げる」を研究テーマに世界遺産教育を実施する。文化、観光、環境、社会貢献等をテーマにして、人文科学的および社会科学的な視点から探究活動を行い、英語発表や成果発表を行うよう指導する。

〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び　学習活動名／教材名）〕

全体　17　**時間**　　特別活動部による世界遺産学習

研修前の事前学習・2時間、研修中の道普請・1時間、参詣道ウォーク（女人道）と壇上伽藍散策・4時間、研修後の事後学習（感想及び振り返り）・1時間、研修後の探究活動・6時間、成果物作成・3時間

〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕

和歌山県地域振興部観光局観光振興課世界遺産班　「保全活動と道普請」資料提供および情報提供
和歌山県教育委員会生涯学習局生涯学習課世界遺産班　パンフレット資料提供
和歌山県世界遺産センター　「世界遺産学習ノート」教材提供、参詣道ウォークと道普請の実施
高野町教育委員会及び高野町中央公民館　　高野紙（細川紙）に関する指導

様式１－２

［概要報告書］

実践校に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	10月15日（水）事前学習①　世界遺産概要 10月20日（月）事前学習②　女人道と道普請	和歌山県世界遺産センターの土永先生による講義 和歌山県世界遺産マスターによる講義	知識・技能 主体的に学習に取り組む
2	10月21日（火）現地研修・高野山 ①　女人道ウォーク　不動坂口女人堂から大門まで高野参詣道の女人道を歩く ②　道普請　大門付近の女人道の補修 ③　壇上伽藍と金剛峯寺散策 10月23日（木）事後学習　ふりかえり	県世界遺産マスターの説明を受けながら、女人道を歩く。 県世界遺産課の丹野先生の指導の下、道の補修を行う。 県世界遺産マスターと一緒に、お堂や塔を巡る。 現地研修後、1000字程度で感想文の作成をする。	思考・判断・表現
3	11月10日（月）探究学習① 11月16日（日）英語発表会 11月17日（月）探究学習② 12月8日　（月）探究学習③ 12月15日（月）探究学習④ 12月18日（木）探究学習⑤	自分で決めた探究活動のための資料集め。 英語部の生徒により、世界遺産の魅力の発表。 資料集め。 自分のテーマに沿って、内容をまとめる 自分のテーマに沿って、内容をまとめる。 探究活動の成果物をA4両面1枚以上で提出。	思考・判断・表現 思考・判断・表現 思考・判断・表現 思考・判断・表現 思考・判断・表現 思考・判断・表現
4	1月8日　（木）英字新聞作成① 1月15日　（木）英字新聞作成② 1月22日　（木）英字新聞作成③ 2月6日　（金）向陽SSH成果発表会	学んだ内容を英字にして世界に発信する。「Nyonin Michi walk: just walking or cultural studies?」として作成する。 成果物及び英字新聞を学校内でポスター発表する。	思考・判断・表現 思考・判断・表現 思考・判断・表現 思考・判断・表現
5	3月17日（火）　英国研修での英語発表 3月21日（土）第9回英字新聞甲子園で発表	英国の姉妹校訪問時、高野紙について口頭発表する。 探究活動の内容をパワーポイントで口頭発表する。	思考・判断・表現 思考・判断・表現

〔学習の成果と課題〕

【成果】 次世代育成事業での学びを契機に、それぞれの生徒が興味を持ったことや将来に繋がる内容を探究できた。また、その内容を学校内外、さらに国外で発表することができた。具体的に、県教育委員会主催の「ふるさとわかやま学習大賞」に応募し、成果物を審査、評価してもらう機会を得た。また探究した内容を、学校内でのSSH成果発表会でのポスター発表と海外研修先で口頭発表を行うことができた。今年度、学習に探究活動を取り入れたことで、自分の将来に向けてより自主的に学ぼうとする生徒の姿勢が見られた。

【課題】 今回の実践は、特別活動部が主導で単年度での企画をしたため参加者が限定されていた。探究活動を行えたが、放課後に集まって、約6時間で成果物を作らなければならなかった。もし向陽の教育課程に取り入れられると、より学習時間を確保でき、個別指導できる回数も増え、多くの生徒達がさらなる教育の機会を得られると考える。今後、クラス単位もしくは学科単位での活動や総合的な探究の時間（向陽文系KECRe）で探究活動を通した世界遺産学習を提供できないか検討したい。

〔世界遺産学習の効果〕

今年度、「世界遺産学習の学び」と「ふるさと教育」と融合することができた。昨年、和歌山の世界遺産の魅力と保全の必要性を“誰”が“どう”広めるのかという問に対して、高校生が多面的に役割を果たすことができると実感する非常に良い機会となったが、今回、個人の関心・興味で自主的に探究活動した内容が、ふるさと教育を促進したり、国際理解教育の推進に繋がった。個人で探究したり、仲間と共に協力して製作したり、成果を他者に向けて発表したりする中、生徒の自己肯定感も高まった。付随的に「高野紙」に関して学ぶ機会が得られ、伝統技術の継承の危機と保存に関する内容を学習し、パワーポイントプレゼンテーションとして残すことができた。向陽高校においては、次世代育成事業を活用して、計画的に様々な形で学習に応用したことで、教育的な効果を生み出すことができたように考えられる。

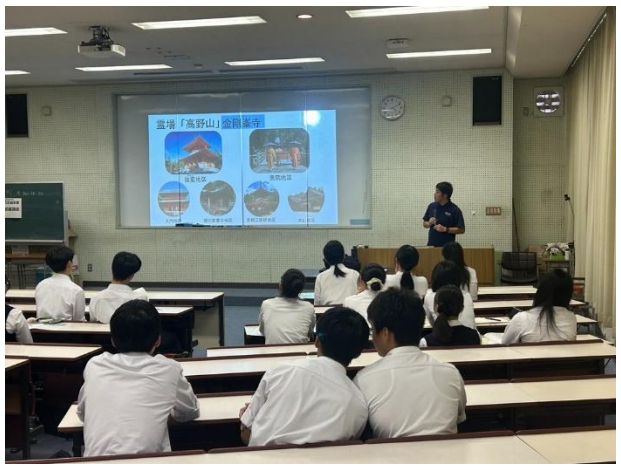
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

今後、世界遺産学習に何か別の教育的要素を加味し、生徒達がより自主的に探究活動できるよう、さらに意図的に工夫していくことができればと考えている。和歌山特有で地域に根ざした教育的要素を加味することで、ふるさと教育との関連においてまだまだ可能性があると考えられる。現地研修を含む世界遺産学習を「一過性の学び」にすることなく、生徒の将来を見据えて「次の一歩」として継続したり派生させたりする必要性がある。ゴールを見据えた上で、プログラムを再度作成したり、うまく他の教育的要素を含む教育と絡めて、厚みのある教育ができればと考えている。また、企業とタイアップした取り組みや世界遺産に追加登録を目指す地域との連携など、新しい側面と中・長期的な視野を持って継続的に活動を行っていければと考えている。

様式２

令和７年度　「次世代育成事業」における学習記録　　［概要報告書　　学習記録・活動写真］

◎高野山研修・事前学習



和歌山県世界遺産センター
土永先生による講義

参詣道の道普請の意義を学ぶ

◎高野山研修・女人道ウォーク

和歌山県世界遺産マスターによる説明
不動坂口女人堂

不動坂口女人堂からの女人道入り口

弁天岳

大門口女人堂跡

◎高野山研修・大門付近での道普請

和歌山県世界遺産課の丹野先生の指導

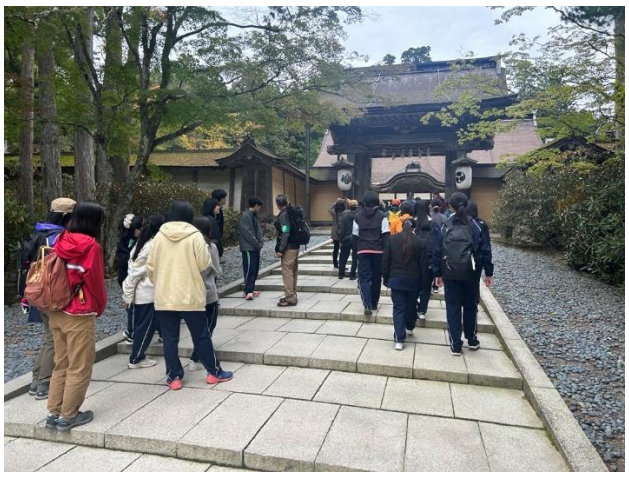
斜面から雨で流れ落ちた土を道に戻す作業

◎高野山研修・壇上伽藍周辺および金剛峯寺

壇上伽藍・三鈷の松付近

壇上伽藍・山王院付近

壇上伽藍・御社付近



金剛峯寺

高野山研修後の感想文

２年環境科学科　　世界遺産の継承に私たち高校生でも力になれること

和歌山県が誇る素晴らしい世界遺産である高野山がどのようにして今日まで守り伝えられてきたのか、またその継承や保存の方法に興味があり、今回の研修に参加しました。

かつて高野山が女人禁制だったために作られた、女人堂や女人道の歴史について詳しく学ぶ中で、それらが高野山の重要な文化財、御廟を中心として周囲の山の峰峰を巡るようにして配置されていることに気がつき、古の人々の工夫と知恵に感心しました。道中、木々の合間から垣間見える五輪の塔などの建造物を見ながら、ふと、約 1000 年前の人々も、現代の私たちも同じ景色を眺めることが出来るのは、次世代に伝えようとする強い意志の賜物なのだとも感じました。

大門付近の女人道で、雨水を流すために作られた側溝に堆積していた石や落ち葉、泥などを取り除き、流れてきた土砂を元の場所へ戻し固める作業を繰り返しました。重い土砂を運びながら階段状の道を登るのは大変で、この道普請が受け継がれているという歴史、そこに込められた人々の思いに触れると同時に、世界遺産の継承に私たち高校生でも力になれることがあるのだと道の清掃と補強を行う中で気付かされました。

高野山の文化遺産等について説明を受ける中で、周囲に日本人観光客よりも外国人観光客の方が多いことに目が行きました。日本が誇る世界遺産であるはずが、なぜ日本人が少ないのか不思議に思いましたが、至るところにある英語や中国、韓国表記の説明書き等の外国人にもわかりやすいように配慮されたものを見て、単なる遺産の紹介以外にもこれらが国外からの様々な人に訪れてもらうことができるようにとの工夫であり、その結果なのだと納得しました。観光収入は文化財の保全において、貴重な財源でありその確保のためにも、今まで以上に世界に向けて、道普請などの遺産の保存と継承のためになされてきた人々の歴史と努力などについてもより多くの情報を発信していくべきだと思います。他にも、同級生の中には、県内在住でありながら、高野山に１度も行ったことがないと言う方々が多くいました。文化遺産を次世代に残していく過程で、若い世代の知識が浅い事は致命的だと思います。国外への情報発信同様、国内の、特に、私たち高校生のような若い世代へ今回のような学習の機会を与えることにより次世代が知識を深めることができる大変良い機会になると思います。

今回の高野山研修は世界遺産に関する知識を深めること、その裏側でなされている人々の努力に触れることの双方で、自分の視野を広げることができる非常に良い経験になったと思います。今後もこのような機会があればぜひ参加したいと思います。

１年普通科　　高野山の女人道を歩いて

高野山に行くのは 2 度目、1 度行った時は観光のみで、目に映る建造物にはただ、見た目のみの感心しか浮かばなかった。しかし、今回の研修では事前に高野山の建造物について、見た目だけでなく、それらの建築過程や背景、その周りの山々などの景色についても調べ、多くの高野山についての知識を得た上で訪れることができた。そして、実際再訪問という形で訪れてみると、自分の目には１度目とは明らかに違う景色が広がっていた。１つ１つの建造物、置物、景観、道、それら全てに理由があり、見た目以上の何かが見えた気がした。歴史的価値の有無、それらを見るだけでなく、心からも感じることができた。

まず、僕たちは女人禁制の時代に女人が歩いたとされる女人道を歩いた。最初に見た時、「これは本当に道なのか」「この道は本当に多くの女人が歩いた道なのか」などなどの疑問点が浮かんだ。はっきりと言って現代では考えられないような厳しい道であった。しかし、世界遺産マスターさんに史実を聞きながら歩くうち、昔の「現実」について知ることができた。それらには筋が通っており、疑問点が全て解決された。このように、道中多くの疑問が浮かんだが更に世界遺産マスターさんにより女人道について知識を深めていく上で、新たな発見を得られた。山頂まで辿り着くと、山より下に広がる歴史的景色に息を飲んだ。山下に広がったのは､かつて女人禁制であったはずの聖域であった｡今となっては性別問わず多くの人々が暮らすひとつの街に違いはなかったが、その影にはかつての聖域としての面影が見えた気がした。「歴史に生まれた街」まさにそのような感じがした。

登り始めたときからであるが、僕たちの登った参詣道である女人道では沢山の自然の趣が感じられた。それは、高野山の風景を彩る木々によるものであった。例えば、クリスマスツリーに使用されることで知られる、モミの木や、花粉症患者にとっては天敵となるヒノキ、杉の木などである。これらの木々の中には樹齢が 500 年近くあるようなものもあり、高野山史と生きる、まさにその体現のようであった。高野山の歴史の本当を彼らに尋ねてみたい、そういう気持ちが湧いた。

「歴史」、僕は高野山で高野山の歴史を知り、また高野山の歴史について知りたいと思った。ただでさえ深い歴史をさらに掘り下げるというのは気が引けるかもしれないが、それでも僕は高野山に「なぜ？」を置いてこのまま生きるのは名残惜しい気がした。

このように、それぞれの場所で「なぜ？」 をできるだけ多くの人に見つけてもらうことが高野山について、いや世界遺産について世間に知ってもらうには大事な事だと僕は考える。そこで、探究学習のテーマとしては、高野山の不思議についての題材を提案したい。具体的な題材としては、「今では到底考えられない女人禁制の街」「高野山に眠る宝玉の秘密」「高野山のあの場所にあの建造物がある理由」等々である。

成果物を作成する上では、題名で人の興味を得られるかどうかがひとつの大事な要素であり、大きな関門であると考える。だから、できるだけ見出しで高野山の良さ、面白さ、深さを伝えられるものとしたい。最後に、高野山研修で学んだ歴史などの知識はこれからの僕の人生に必ず役に立つものであり、この経験はひとつの宝物のようなものでもあります。この機会をつくってくれた先生、世界遺産マスターの皆さん、高野山の施設に務める皆さん等々、研修に携わってくれた多くの人達には心から感謝しています。

１年普通科　　参詣道の保全

今回、高野山研修を通して、高野山の魅力や、道普請の大切さ、これからの課題点などを学ぶことができた。その中でも私が特

に印象に残ったのは、参詣道についてだ。私たちが今回登ったのは女人道という道であり、女人禁制だった他の参詣道のかわりに作られた道である。実際に登ってみる前は、女人という名がついているのであまり通りにくい道でなく、楽に登れるだろうという先入観を持っていた。しかし、いざ登ってみると、予想とは違ってとても狭く、滑ると横の崖に落ちそうな危険さがあった。そのため、「昔の人はこんな急な道を通って高野山に登っていたのか」と、昔の人の信仰心の強さを感じさせられた。また、高野参詣道には高野六木という高野山で寺院建築や修繕に用いられるスギ、ヒノキ、コウヤマキ、アカマツ、モミ、ツガの 6 種類の木が生えており、豊かな自然が育まれていた。 この豊かな自然からは、昔からの人間と自然の共存を感じることができ、時には人間が高野六木を使って金剛峯寺のような寺を作ったりして自然の力を借りる一方、自然は人間が保全活動を行うことで、豊かな自然を保ってきたと私は考えた。また、高野参詣道には SDGs のような今の私たちが直面している問題の解決策のヒントがあるのではないかとも思った。 その上で、この参詣道を保存するためには何をすればいいのだろうか。私が考えるにまずすべきなのは若い世代へ高野山の魅力を伝えることであり、私たちのような若い世代に魅力を伝えるにはもっと SNS を活用すべきだ。そうすることで、私たちの高野山の参詣道に対する意識が芽生え、もっと興味を持つ人が増えると思う。それによって参詣道への関心も高まり、風化を防げる。次に、道の状態を改善することが大切だと考えた。登ってみて思ったのだか、草が茂っていたり、クギが外れそうになっていたりするなど保全が足りていない現状であり、もっと保全を進めるべきだと感じた。高野山の魅力とこのような課題を広げられるように探究活動を行っていきたい。

1 年普通科　　過去と今を繋ぐ世界遺産

今回私が高野山研修に参加した、一番の理由は単純に前から高野山に行ってみたく、地元和歌山の世界遺産について学びたいと思ったからです。

実際に行ってみて一番印象深かったのは女人道を実際に歩き、女人禁制とその解除について学んだことです。私は昔高野山が女人禁制だったことを知らず、事前の世界遺産センターの職員さんからの説明で知ったのですが、今は女人禁制が解かれている理由を世界遺産マスターの方から教えていただきました。女人禁制の解除には今の私たちにも関係の深い博覧会が関連していたり、教科書で習う日露戦争が直接的に関係していると知り、驚きました。当時から海外では女性を大事にしており、博覧会の際に女性の外国人観光客が訪れられるように、と女人禁制を解いた場所が多くあったと知り、博覧会がそのような形で日本の歴史に関係しているとは思いませんでした。また、高野山では日露戦争により男性の多くが戦場に行ってしまったため女性が代わりにお店などの運営をしなければならなかったため女人禁制が解かれたと知りました。

また、道普請と清掃活動についても自分が世界遺産に直接的に関わることが出来る貴重な体験でした。側溝の土を掘り、道のへこんでいる部分に移動させて道の補強をしたり、枯葉や木の枝などは水の流れを止めないように他の場所に移動させたりしました。世界遺産は登録された後も基準を満たすように維持し続ける必要があるのだと事前学習で学び、ボランティアや職員の方々が尽力していることを知りました。自分もそれに関われたことが嬉しかったです。人が歩いたり、雨が降ったりすれば道はへこんでしまうし、流された土や枝によって側溝での正常な水の流れが出来なくなってしまったりと世界遺産を維持することの難しさを直接感じました。世界遺産は登録された後も大変だと知り、維持のための作業も多いですが和歌山の誇りとしてこれからも自分が関われるようにしたいと改めて思いました。これを通して高野山だけでなく他の世界遺産ではどのような活動が行われているのか知りたいと思いました。

私は今回の活動を通して、世界遺産の歴史と万博のような今ある文化との関わりや歴史での出来事との世界遺産の関わりがあるのかについて学んでみたいと思いました。また、他の世界遺産の維持活動でその国特有のものやその世界遺産特有のものがあるのかについて学びたいと思いました。

1 年環境科学科　　参詣地と観光地としての高野山

世界遺産として登録されている、紀伊山地の霊場と参詣道。その一部である高野山は和歌山な有名な観光地でもあります。私は、観光学部に興味を持っていて、観光地はどのようにして成り立っているのかを知りたいという思いで、高野山研修に参加しました。

今回の高野山研修では、世界遺産マスターさんと一緒に女人道を歩いたり、清掃活動をしたり、壇上伽藍や金剛峯寺を訪れたりしました。

女人道では、マスターさんが、全部歩くと 10.7 キロメートルもあると教えてくれ、1872 年までは高野山は女人禁制であったということも初めて知りました。私は、女人道を歩いているとき、女人禁制だったときの女性参詣者の姿を何度も思い浮かべました。そんな女性参詣者が 10.7 キロメートルもある道を歩いた、という事実のある女人道を歩くことができて、私はとても嬉しかったです。だから、清掃活動では、そんな大事な道を私も守りたいという気持ちがあり、とてもやりがいがありました。

午後に訪れた壇上伽藍は、今回の高野山研修の中で私が一番印象に残った場所となりました。実は、私は父と一緒に高野山に訪れたことがあり、そのときも壇上伽藍に行きました。しかし、当時の私は、壇上伽藍には不思議なことにお寺と神社があることや、一つ一つの建物に何の意味があるのかを知ろうともせず、考えてもいませんでした。マスターさんが、金堂が木で建てられているように見えて、耐震耐火を考慮した鉄骨鉄筋コンクリート構造で建てられてることや、そんな金堂の前に建っている中門が石の表面にあわせて柱の木の表面が削られているという高度な技術があることを教えてもらいました。また、壇上伽藍の昔の地図を見せてもらったりして、私はここには深い歴史があることにとても圧倒されました。金剛峯寺では、建物の屋根の上にある物や、金剛

峯寺であった出来事などを教えてもらい、他にも沢山のことを学びました。

このようなことから、私は今回の高野山研修のおかげで、「観光地とはどのようにして成り立っているのか」という自分の問いに対して答えを見つけることができました。観光地というのは、マスターさんのように、その土地のことを深く知っている人や、この土地を守りたい、知って欲しいという人たちの思いから成り立っているということです。ただ訪れその場所を見るのではなく、学んで、深い関心を得ることによって、人々の心に印象深く残り、もう一度訪れたくなるから観光地が成り立っていくと私は考えました。私にとって今回の高野山研修は、世界遺産について知ることができたことに加えて、高野山について深く学ぶことができ、観光地とは知れば知るほど面白いということにも気付かされました。私はこれに気づけたことが何よりも嬉しいです。また、来年も参加してみたいと思います。

１年環境科学科　　高野山の伝統的建造物

私が今回の高野山研修に参加したのは、普段の学校の座学だけでは学べないことを、実際に体験してみたいと思ったからです。また、所属している山岳部の活動以外で、研修に参加したメンバーと一緒に山を歩きながら活動することに興味を持ったのも、参加を希望した理由の一つです。

研修では、高野山の女人道の整備にかかわる作業として、溝の掃除を行いました。溝の中には落ち葉や土砂がたまっていて、雨が降った時に水が流れないような状態でした。それを少しずつ取り除く作業は想像していた以上に大変でしたが、他の向陽生や先生、世界遺産センターの関係者の方々と一緒に協力しながら進めることで、楽しく取り組むことができました。作業が終わった時には大きな達成感があり、昔から現地の人々が道を守るために行ってきた努力の大きさを実感しました。

また、たくさんのお寺や神社を世界遺産マスターの方の説明を受けながら見学しました。自分の住んでいる県なのに、知らないことばかりで驚かされました。高野山の建物は、古くから巡礼者を迎えてきた歴史あるもので、柱や屋根には素晴らしい技術が込められていると教えていただきました。木や石で作られた装飾や狛犬、扉の彫刻一つ一つに、昔の人々の信仰や文化、技術が込められていることを実際に見て学ぶことができました。また、建物の細かい構造や配置からは、高野山の壇上伽藍が長い間守られてきたことがわかりました。建物の装飾を間近で見て、昔の人々の技術がすごいと思ったし、文化を守る大切さも改めて感じました。

この研修を通して、高野山は昔の巡礼者だけではなく、今もボランティアなどの多くの人々の手で守られていることがわかりました。自然や景観を維持するために努力している人々の存在を知ることで、歴史や文化を大切にしたいという気持ちも深まりました。また、仲間と協力して努力することの大切さや楽しさ、道の整備を通して地域の文化に触れる面白さも実感でき、最高の体験になりました。

今後は、高野山にまつわる歴史や地域文化、道や建物を守る活動についてもっと調べてみたいと思いました。建造物や彫刻の意味なども調べてみて、昔の人々がどのような思いで作ってそれを守ってきたのかを深く考えてみたいです。

今回の研修を通して、ただ道や建物を見るだけではなく、自分の手で整備したり建造物や彫刻の細かいところまで観察したりすることで、高野山の歴史や文化を身近に感じることができました。普段の生活ではなかなかできない体験を、研修に参加したメンバーと一緒にできたのも貴重な経験になったと思います。今回の研修をきっかけに、これからは歴史や文化にもっと興味を持ち、学んだことを自分の生活や学びに生かしていきたいと思います。

２年普通科　　世界遺産保持のためのボランティア

今回、私は高野山の歴史及び現状を知るため、それに加えて元々ボランティア活動に興味があったということでこの高野山研修に参加しました。始めるまでは、正直高野山でするボランティアなんて数がしれているだろうと考えていたのですが、実際はそうではなく、むしろまだまだ人材が必要なぐらいな現状だということを学びました。事前学習で高野山に必要なボランティアの全貌は、世界遺産センターの職員さんに伝えていただいていたのでぼんやりとは理解はしていたのですが、実際この目で見て確認してみると道路がでこぼこになっていて、確かに保全を必要とするような状態になっているところがいくつもあったり、草が生えていて中々進めないような道もあったので、事前学習でもおっしゃっていた世界遺産登録の取り消しの危機についての理解や認識も改められたと思います。今回の貴重な機会を経て、より多くの世界遺産の現状について調べたいという意欲が高まりました。

話は変わり、私の今回の参加の主目的でもある高野山の歴史についての感想なのですが、世界遺産マスターさんが教えてくれた高野山の歴史は私を驚かせるものばかりで、女人道の由来や、当時の人々の生活模様など様々な日本の歴史を知れて、高野山が利用されていた江戸時代など歴史についての理解がより一層深まった気がします。今回の話を聞いて、気になった点が一つありました。それが、当時の女性の立場は一体どのようなものだったのかについてです。当時の女性は確かに男性よりは低い身分で、ある程度自由を許されていなかったという話は聞いたことがあるのですが、高野山の入山を途中で止められるほど、女性はひどい扱いを受けていたのか、また逆になぜ女性は入山を認められなかったのか。女性の参拝禁止という名目なら完全に高野山への入山は禁止してもいいのに、一応女性は途中までの参拝は許されています。それらの疑問から、私は研修後のレポート探究では当時の女性

の身分について、そしてもう一つ高野山に存在する曼荼羅像について調べたいと思いました。曼荼羅像についてはマスターさんからの説明や、壇上伽藍の全貌を見て調べてみたいと思いました。

大学進学についてはまだあやふやで、この知識や研究を活用できるかどうか分かりませんが、この貴重な機会で学んだ知識を今後、大学進学のために存分に活かしていこうと思います。

２年環境科学科　　体験を通した学びを含む観光

今回僕は、令和７年度高野山研修に参加した。世界遺産である高野山の文化的価値や自然環境について理解を深め、地域観光の在り方を学びたいと思い今回の研修参加を決断した。当日は冷え込みが強く、出発地との気温差が大きかったことから、高野山が山岳宗教都市であると同時に、厳しい自然環境の中に形成されていることを実感した。

最初に不動坂口女人堂を訪問した。女人堂はかつて女人禁制であった高野山において、女性が参拝可能であった最終地点として知られている。信仰文化の歴史的背景を象徴する施設であり、宗教的制約と時代変化の関係を学ぶうえで重要な資料的価値を持つそうだ。ここから弁天岳を経由し大門までの登山道を歩き、参詣道としての山道の構造や景観を実際に体験した。

大門到着後、付近で道普請作業を行った。この作業を通して、観光地の基盤整備がいかに地域住民や参拝者の手によって維持されているかを理解することができた。観光地の価値は建造物や景観そのものだけでなく、それを支える環境整備の継続的な努力によって保たれていることを学ぶことができた。

続いて、壇上伽藍および金剛峯寺を中心とした現地学習を行った。壇上伽藍の根本大塔は、色彩・形態の両面から見ても観光的視点での訴求力が高く、国内外の観光客が写真撮影を行う姿が多く見られた。また、金剛峯寺は宗教施設でありながら、庭園や建築物の美的価値が高く、文化観光資源としての機能を果たしているそうだ。平日であったにもかかわらず、外国人観光客の割合が日本人よりも多く、国際的な観光地としての高野山の位置づけが明確に示されていた。多言語案内や外国人対応の充実も見られ、インバウンド需要に対応した地域観光が国際的な視点から見ても整備されていると感じた。

研修の最後には自由時間を利用し、参道沿いの土産物店を訪れた。店舗ではごま豆腐や数珠、線香など宗教的要素を取り入れた商品が多く販売されており、地域の伝統文化と観光産業が密接に結びついていることが確認できた。こうした物販活動は地域経済の活性化に寄与すると同時に、観光客が高野山の文化を持ち帰る手段として機能していると思った。

今回の研修を通して、高野山は「宗教都市」と「観光地」という二つの側面を併せ持つことに気付かされた。観光客の増加は地域振興の一方で静寂や信仰空間の維持に影響を与える可能性もあり、今後は文化的価値の保全と観光振興との調和が重要な課題となると考えられる。高野山の観光は、単なる観光消費ではなく、宗教文化を理解し体験する「学びの観光」として発展していくことが期待されると考えられる。

２年環境科学科　　信仰の平等について

私は神社や寺に興味があり、今回高野山について学ぶことができるということでこの高野山研修に参加しました。また、昨年熊野古道研修に参加したので、熊野古道と高野山の違いを実際に歩いて体験したいとも思いました。

当日、私たちは緑に囲まれた静かな道を歩きました。道の途中、かなり傾斜があったり、木の根がむき出しになっていたり、歩くのが辛いと思うような場所がありました。それでも当時の女性達は歩き続けたのだと思うと、彼女達の信仰心の強さを感じました。

和歌山県世界遺産マスターの方から、当時は女性が高野山の聖域に入れなかったこと、その代わりに山の周囲を巡る女人道が作られたことを教わりました。その話を聞いたとき、信仰の世界に差があったことに驚きましたが、制限の中でも祈り続けた女性達の姿に、人の思いの力を感じました。

この体験を通して、私は、誰もが同じ場所で祈ることができなかったとしても、それぞれの立場で同じ気持ちを持つことが大切だったんだと感じました。場所が違っても、祈る気持ちに上下はありません。昔の女性達は、そのことを行動で示していたのだと思います。今の時代、性別や立場に関係なく信仰できるのは当たり前のように思えますが、その当たり前は、多くの人の努力と願いの積み重ねでできたものなのだと気づきました。

今後の探究学習では、信仰の平等をテーマに、熊野古道と女人道の違いを比較しながら、当時の社会や人々の考え方を調べていきたいです。そして女性禁制の地であった高野山どのように開かれていったのか知りたいです。また、世界遺産として残されているこれらの道をどのように守っていくべきかについても考えていきたいと思います。私たちが今、歩くことができるこの道は、昔の人々の思いが形になったものだからです。

女人道を歩いて感じたのは、祈りには何よりも心が大切だということです。時代が変わっても、人が何かを信じ、願う気持ちは変わらないと思います。今回の研修で学んだことをこれからの学びに活かしていきたいです。

１年環境科学科　　ふるさとの魅力

私は学校で行われた「高野山研修」に参加し、和歌山県の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について学んだ。講師として来てくださった世界遺産マスターの方はとても熱心で、ひとつ質問をすると、うれしそうに丁寧に説明してくださった。その姿に、和歌山の文化や歴史を心から大切に思う気持ちが伝わり、温かい人柄にも感動した。こうして地元の人々が一生懸命に世界遺産を守り、次の世代へつなごうとしていることを知り、私もその思いを受け引き継ぎたいと思った。

現地研修で特に印象に残ったのは、和歌山県が全国で国宝の数が第６位だという話である。これほど多くの国宝があるとは知らず、自分の住む県の価値を改めて実感した。また、熊野古道がスペインの「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」と並び称される“信仰の道”であり、その両方を歩いた人には「デュアル・ピルグリム証明書」が贈られると聞いて、世界とつながる和歌山の魅力に誇りを感じた。

私は山岳部に所属しており、自然の中を歩くことが好きで、見たことのない景色や文化に触れることに強い関心がある。いつか自分の足で熊野古道の長い道を歩き、さらにスペインの巡礼路にも行き歩いて、証明書をもらいたいと思った。その道のりの中で、たくさんの人と出会い、話し、心に残る経験ができると思った。

私は将来、県外や海外にでてグローバルに活躍したい。そして、広い世界と立ち向かえるような人になりたい。そのためにも、まずは自分の地元の和歌山の文化や自然をしっかり理解し、自分の住んでいる地域の良さを伝えられるようになりたい。今回の研修を通して、地元の魅力をたくさん知った。これから、大人になるにつれ、たくさんの人と関わる機会が増えると思う。そのときに、この和歌山の魅力を伝え多くの人に知ってもらいたいと感じた。

１年普通科　　歩いて感じた、祈りと文化の高野山

今回、英語部の研修として高野山を訪ねる機会がありました。世界遺産マスターの案内の下、女人道を歩きながら高野山の歴史や信仰、そして「女人禁制」という文化的背景について学ぶことができました。また、歩くだけではなく、実際に道の修復作業にも参加し、世界遺産の保全に自分たちが少しでも関われたことに達成感を覚えました。修復の作業は単純な力仕事ではなく、聖地を支える一端を担う作業として心に残りました。

世界遺産マスターの説明を聞きながら、高野山が人々の信仰と努力によって長く守り続けられてきた場所であることに納得しました。その背景を知ることで、ここが「訪れる場所」ではなく、「受け継がれる信仰の場」であることを実感しました。特に印象的だったのは、かつて女性が立ち入ることを許されなかった女人堂周辺を歩いていたときです。その道を、今の私たちが誰でも自由に歩けるということに、時代の変化と文化の多様性への理解が重ね合わさっているように感じました。

実際に歩いてみると、想像していたよりも多くの外国人観光客の姿がありました。その光景を見て、高野山が海外からも注目されている場所あることを改めて実感しました。しかし、同時に日本人の姿が少し少ないことに寂しさも覚えました。私たち自身がこのような貴重な文化遺産をもっと身近に感じ、大切にしていく必要があるのではないかと考ええました。外国人の訪問によって地域が活性化するのは良いことですが、日本人が自分の文化にもっと関心をもつことも同じくらい重要であると受け止めることができました。

今回の研修では、英語部としての活動を通して、文化と信仰、観光と保全という多面的な視点から高野山を学び、外国人観光客の増加を肌で感じました。道の修復など小さな活動でも世界遺産保全に貢献できることを実感し、高野山という場所の歴史や信仰の重みを深く感じる忘れられない体験となりました。

１年普通科　　歴史を学ぶ体験

私は英字新聞を作る学習の一環で、高野山を訪れました。高野山は弘法大師空海が開いた真言宗の聖地として知られており、長い歴史と信仰が息づいていますが、訪れる前の私は、和歌山県民として大体の事を知っている程だったので、行く前に事前学習を受けた際、学ぶことが少し難しい場所なのかなと思っていました。しかし、実際に訪れてみると、とても自然に包まれていて、清々しい空気におのずと心が安らぎました。

最初に「女人道」という道を歩きました。昔、高野山は女人禁制で、女性はこの道の外側から修行の地を拝んでいたそうです。世界遺産マスターさんからその話を聞いたとき、信仰のためにこんな険しい道を歩き続けた人々の思いに心を打たれました。女人道はただの山道ではなく、長い時間を通して人々の信仰が守られてきた場所なのだと感じました。

次に、用水路にたまった土を削り取り、削れた道に運んで直す作業をしました。事前学習の時に、高野山は保全活動によって守られてきたという話を聞いていたのですが、実際に活動に参加してみると、作業には思っていたよりも力が必要で大変でした。しかし、自分たちの手で少しずつ整えていくうちに、私も高野山を守っているんだ、この道を未来につないでいっているんだ、と感じることが出来て嬉しかったです。普段何気なく歩いている道も、こうして誰かが守り続けているのだと実感し、改めて感謝の気持ちが溢れた時間になりました。

また、壇上伽藍の周辺の建造物も見学しました。どの建物も立派で、長い年月を経ても変わらずに多くの人々に大切にされてい

ることが伝わってきました。特に印象に残ったのは、華岡青洲の弟が関わった場所があると知ったことです。小学生の社会科見学で華岡青洲の里に訪れたことがあり、以前から知っていた偉人だったので、高野山と関わりがあると聞いてとても驚きました。また、高野山を守る四天王の胸元にとまっている虫にも意味があることを教えて頂たり、実際に国宝である不動堂を目の前にし、興味を引かれたことも印象に残っています。

今回の訪問を通して、私は「歴史を学ぶ」ということが教科書だけでは分からない体験だと気づきました。実際にその場に立ち、自分の目で見て、体で感じることで、言葉以上の学びがありました。この経験をもとに、英字新聞では高野山の魅力や日本の文化を、海外の人はもちろん、以前の私のように和歌山県民とはいえど、あまり高野山を知らないという人にも伝わるような言葉で表現したいと思います。

１年普通科　　体験や学びを通じて日本の文化や伝統を身近に感じる

今回の高野山研修では普段の学校生活では体験できない貴重な時間を過ごすことができました。最初に行った山登りは約１時間で、思っていた以上にしんどくて、途中で何度も休みたくなりました。ですが、友達と声をかけ合いながら登りきったときには大きな達成感があり、自分の体力や根気の大切さを改めて感じました。

その後に行った道の修復作業では、最初は地味な作業だと思っていましたが、自分たちの手で少しずつ道がきれいになっていくのを見ていると、高野山を訪れる人たちの役に立てているような気がしてとても嬉しかったです。仲間と協力して何かを成し遂げる楽しさを実感することができました。

最後に、高野山の歴史や宗教についての話を２時間程度聞きました。正直、最初は少し長いと感じましたが、話を聞いていくうちに高野山が長い歴史の中で多くの人々の信仰を集めてきた理由が分かり、とてもためになりました。今回の研修を通して、体験や学びを通じて日本の文化や伝統を身近に感じることができて、とても充実した一日になりました!!

１年普通科　　目に見えない長い時間や多くの人の思いの気づき

今回の高野山研修では、普段とは違う静かな場所で過ごすことができました。高野山は空気がひんやりとしており、まわりには大きな木がたくさん立っていました。歩いていると、学校にいるときよりも時間がゆっくり流れているように感じました。

説明をしてくれたガイドさんは「世界遺産マスター」と紹介されていて、高野山のことをとてもよく知っていました。建物の並び方、そこに置かれているものの意味などを、分かりやすく話してくれました。ただの古い建物だと思っていたものにも歴史があり、昔の人たちが大切にしてきた思いや理由があることを知ることができました。

研修の中で印象に残っているのは、女人道の階段の形を整えたことです。雨で土が流れて段がはっきりしなくなっていたりした場所を、少しずつそろえていきました。作業は地道だったけれど、形がそろってくると階段がきれいに見えて、実際に歩きやすくなっていくのが分かりました。いつもは誰かが整えてくれていることに気づかずに通っていますが、今回は自分たちがその手入れをする側になれたことがうれしかったです。

マスターさんの話を聞きながら道を歩いたとき、ただ見て回っているだけではなく昔の人たちも同じ道を通っていたと思うと、時間がつながっているように感じられました。

今回の研修で感じたことは、目に見えているものの裏には、長い時間や多くの人の思いがあるということです。説明を聞いたり、自分の手で整えたりしたことで、ただ見るだけでは分からないことに気づくことができました。

これからは、普段の生活の中でも、ものごとを「当たり前」で終わらせずに、少し丁寧に見たり考えたりする気持ちを大切にしたいと思いました。たとえば、毎日通る学校までの道、電車や線路など、身の回りのほとんどの物は誰かが手入れしなくては使えないということを意識していこうと思います。

１年普通科　　高野山研修に参加して

高野山は今まで一度も行ったことがなかったので、行きたいと思い今回参加しました。高野山の街並みは、京都に似ていて古い街並みが良かったです。女人道はもっと整備された道であるとのだと想像していたので、あまり整備されていない道を歩くと知った時とても驚きました。根に足を取られるとゴロゴロと下まで落ちて行ってしまうので、足元に注意しながら道を歩くのが怖かったです。マスターさんが熊の習性を教えてくれたりキノコが生えているのを見せてくれたりして普段は感じることができない自然を感じることが出来て楽しかったです。根本大塔は朱色で大きくとても綺麗でした。外国人観光客が沢山いて有名な場所であるのだと改めて実感しました。六角経蔵を１周回すとお経を読んだということになるということが昔の考え方が受け継がれているのが良かったです。昔から変わっていないという建物がたくさんあって、昔の技術でどうやって作ることが出来たのかと思う事がたくさんありました。高野山は落雷やろうそくの火などで火事が多いと聞き、昔からの建物が燃えて新しく作られていたけれど、でき

るだけ昔の形を保ったり今の技術を駆使したり、木造であるのを鉄筋に変えたりしていて工夫を感じました。昔は今ほど便利でなかったのでひとつの町石を作るにも今の価格で 1 億円かかると聞き高野山がたくさんの人から支えられていたのだと分かりました。たくさんの人に支えられていたからこそ自分たちの世代まで受け継がれてきたことはとても素晴らしいと思いました。最後に、秀次の話はとてもおもしろかったです。前から戦国時代が好きだったので、秀次が自害をして秀次の一族が打首になったことは知っていたけれど、まさか秀次が高野山で自害し、頭より下の部分が高野山に祀られているとは思ってもいなかったからです。興味があった戦国時代に関することの近くに自分がいてるのがとても嬉しかったです。秀次がどこら辺で自害したのか気になったのでマスターさんに聞くと、他のことも丁寧に教えてくれました。高野山のことをたくさん聞き改めて高野山がすごいところであるということが分かりました。このような歴史ある素晴らしい所が和歌山にあるということがとても誇らしいので英字新聞を頑張りたいです。

1 年普通科　　世界的に残すべき遺産・高野山

高野山研修を終えて、ひと段落落ち着いたところでどんな体験をして、何を学んできたのかを改めて考え、振り返った。

歴史ある建造物や自然を感じたがその中でも様々な体験が出来たように思う。半袖で行動するには億劫な寒さの中、山道を 1 時間程かけて登った。道中、世界遺産マスターの方から面白い話しを幾つか聞いたが、特に印象に残っているのは高野山関係のお話…というわけでは無く、富士山が文化遺産だと言う点だ。日本一高い山と呼ばれる富士の山。今まで私は自然遺産だと思い込んでいたが文化遺産だったようでとても驚いた。せっかく高野山に来たのだから高野山関係のお話が印象に残るべきなのだろうと思うと少し申し訳なさがある。

しかし、そうやってお話ししてくださる世界遺産マスターの皆様の顔や声色が弾んでいるようで、聞いている私も楽しくなった。高野山のお話のみならず世界遺産全般において深い知識を持つ方々と直接話せたことはとても有意義なものだった。

登山を終え、山道の溝の掃除を行うとき、ふと、この山は守られているのだと感じた。歴史の残った建造物があることは当然ながら、それを大切に思う人々の力が美しかった。世界遺産に登録されるにはどのような条件が必要なのか、どのよう過程が必要なのか、私はたった一部しか知らない。それでも、そこに辿り着くために多くの人の想いが積み上げられたことは分かる。短い時間であったが私も世界遺産を守る 1 人の人間として小さなお手伝いが出来たかと思うと誇らしくなった。

高野町の中央公民館でご飯を食べる時、小中学校が合同であることには驚かなかった。人数が少なければそんなものだろうと思っていたのが事実だ。しかし、公民館まで一緒だとは到底思っておらず帰り際、屋上から小学生が覗き込んでいたとき、初めてそこが公民館と小中学校が合体した建造物であることに気付いた。少子高齢化、過疎化が急速に進んでいる現在の日本、こと地方において、子どもの数の減少は深刻な課題だと感じた。

昼食を食べた後バスで移動した。壇上伽藍、初めて聞く言葉だった。伽藍という言葉も伽藍堂などでしか聞いたことがない。どんな場所なのだろう、どんな建造物が立っているのだろう。そんなワクワクした気持ちで向かった先は見たことがある景色。テレビの天気予報などで良く紹介される、鮮明な朱色が特徴的な建物が立った場所だった。その建物は根本大塔と呼ばれており、綺麗な色が印象的で一度は行ってみたいと思っていた。中に入ることは叶わなかったが外から見ただけでも十分だった。大きな柱が幾本も立ち、大きな仏の姿が描かれていた。

壇上伽藍にある建物、ほぼ全てを見てみたが昔ながらの建物の良さがあった。室町時代から立っているというお寺を見た時、歴史とはこのように紡がれていくのだろうと世界が違って見えた。

全ての行程を終え、帰るバスから風景を注視すると面白いことに気付いた。統一された街並みと現地の人々、そして外国人が多く歩いていた。国籍を超え、様々な人が日本の、１つの観光地へ訪れていた。国境を越えてでも見に来たいのだと、それを行うほどの価値のある場所なのだと、改めて感じることが出来た。世界全体で守ろうという代物が世界遺産だ。その世界遺産に外国の方が多く来るということは、高野山とは、我々日本人だけの存在では無いということ。たった 1 日の短い間の体験であったが、和歌山県民として、世界に広く知られる高野山について知る良い機会であったと思うし、とても楽しく満たされた日であることは間違いないだろう。

2 年普通科　　高野山研修での学び

私は今回、英語部で英字新聞を書くために高野山研修に参加しました。私は特に女人道のことを詳しく知りたいと思って参加したのですが、想像と違う点が 2 つありました。一つ目は道の険しさです。私は昨年歩いた熊野古道のように、観光客が気軽に歩けるような道だと思っていたのですが、あの道に慣れた人に先導してもらわないと通れないような山道で衝撃を受けました。このような険しさ道を女性が歩いていたことに、昔の人の信仰心の厚さを感じました高野山には以前も訪れたことがありましたが、観光ではなく、自分の足で歩きながら学ぶのは初めてでした。女人道は、かつて女性が高野山の聖域に入れなかった時代に、その周囲を巡って参拝した道だと教わりました。自分がその歴史の一部をたどっていると思うと、不思議なつながりを感じました。

道普請では、崩れた場所に土を入れたり、落ち葉を掃いたりしました。わたしは、作業で綺麗にできた道はごく一部だけれど、高校生である私たちがこの活動をすること自体が、私たちにとっても社会にとっても良い影響を与えるのだろうと思います。

また私は､高野山が仏教と神道が共存してきた場所であることにも興味を持っています｡そういう場所は全国的にも珍しいので、海外の観光客の方が多くいましたが、我々日本人の宗教観を体現していると感じたので、日本人こそ一度訪れるべきだと思いました。

今回の研修は、歴史を学ぶだけでなく、昔の人の生活や考えに思いを馳せる貴重な機会でした。これかも、目に見えないところで支えてくれている人や自然に感謝しながら生きていきたいと思います。また個人的にも訪れたいです。

１年普通科　　高野山での山登りと清掃活動を通して

今回高野山研修で山を登り、高野山の歴史について学ばせていただきました。私は将来和歌山県に貢献できるような県庁などの公務員になりたいと考えています。そのために、和歌山について沢山のことを学びたいと思っていて今回の研修で高野山のことを前よりも少しでも多く学べたらいいなと考えてこの研修に参加しました。

高野山は、弘法大師、空海が開いた真言密教の聖地であり、豊かな自然と歴史的な建造物が共存する場所です。今回の活動を通して、自然の美しさや清掃活動の意義を深く感じることができ、また高野山の歴史について学べて、より高野山に興味を持ちました。私たちは高野山の不動坂女人堂から弁天岳までを目指して登り始めて、最初からわりと急な道で徐々に傾斜が増し、息が上がってしんどいとも思いましたが、時々で高野山にある植物や建物についての説明があり、とても興味深いものでした。

具体的には、クリスマスツリーに使われるモミの葉やヒノキ、スギなど様々な植物が高野山にはあり、それぞれ語り部さんが詳しく説明してくださったので今まで私は植物などに興味は全くなかったのですが、今回の説明を受けて、高野山には様々な植物がありそれぞれに特徴があって面白いものだということが分かり、興味深かったです。

山頂に到着すると、広大な山々が広がり、遠くには街並みが見えてその景色はとても素晴らしいもので見た瞬間、疲れも吹き飛びました。山頂には弘法大師を祀る奥之院があり、そこでも語り部さんから奥之院についての説明があり、私たちが登ったコース以外にもたくさんのコースがありそれぞれに奥之院のような建物があり歴史があると知りました。また基本的に高野山に動物を連れ込むことはできないのですが昔、弘法大師を犬が真言密教の根本道場にふさわしい地を探していた際、白と黒の犬を連れた狩人に導かれて高野山に入ったという伝説があり、一部のコースで犬を連れて歩けるところがあります。ただし、女人禁制だった時代はメスの犬は連れてこれず、オスの犬のみ可能だったということです。

このような伝統と歴史がある高野山ですが、他の国の世界遺産と同様、世界遺産としての価値を保てなくなる可能性を持っています。道が荒れて、修繕活動を行わなくてはならなくなっているところがあって、今回私達も道の修繕活動を行いました。世界遺産登録を維持するためにも、これから高野山の景色を楽しみながら道の修繕活動や清掃活動を行うイベントをもっと行っていくべきだと思いました。海外の方も参拝していたので海外の方向けのイベントももっと積極的に行っていけばいいのではないかと思いました。

今回の高野山での山登りと清掃活動を通して、私は多くのことを学びました。高野山の自然は、私たちに癒しと感動を与えてくれました。さらに、今回の経験を周りの人たちに伝え、環境保護の意識を高めていきたいと思います。将来、もし和歌山県庁で働くことが出来たら、高野山についての保護活動や観光客をもっと呼び込むためのアイデアなどを考えて実行できたらいいなと思います。

高野山での山登りと清掃活動は、私にとって貴重な経験となりました。自然の美しさを再認識し、世界遺産としての価値を保っていくことの意義を深く理解することができました。今回の経験を活かし、これからの生活で環境保護のために積極的に行動していき、そして、いつかまた高野山を訪れ、その美しい自然を満喫したいと思います。

１年普通科　　時間の経過によって移り変わる感想

私は高野山に中学１年生の頃、家族と紅葉を見に行ったことがありました。その時にも金剛峯寺や壇上伽藍は見ましたが、「大きいな～　綺麗だな～」ぐらいにしか思わず、側にある看板の説明を見ることもしませんでした。難しそうだった上に、大して歴史に興味を持っていなかったからです。しかし、今回３年の年月が経って価値観が変わってから高野山研修に行ったことで、様々な出来事の印象が変わりました。大門では、昔は「大きいな」ぐらいにしか思わずに写真を撮るだけでした。しかし、言語文化で漢文を習ったことで柱の真ん中に書かれている言葉の並びの意味を理解でき、世界遺産マスターの方達に説明を受けて「こんな事が書いてあったのか。理解出来るって面白い！」と楽しめるようになりました。ただの門が理解の楽しさの要素になった瞬間だったと思います。壇上伽藍では、昔は「凄くハッキリした朱色…」と根本大塔に感動したことを今でも覚えています。今回行った時にもその印象は変わりませんでした。しかし神社とお寺が同居していると聞いて、かなり驚きました。大体が神様と仏様は分けて奉ると思っていたからです。ましてや、真言宗が有力な高野山。弘法大師が即身成仏を説いたこともあったからです。世界遺産マ

スターの方も、「皆さんにとってキリスト教とイスラム教が一緒にある、みたいな感覚でも良いと思います」と仰っていました。寛容なのか、と思うと共に「だからこそここまで世界中から参拝者がいるのかもしれない」と感じました。また、仏様の手の形や、乗っているものが興味深かったことが今回とても印象に残っています。私がイメージしていた仏様の手の形は奈良の仏様の施無畏印と与願印でした。けれど、壇上伽藍にいた仏様達は忍者のようなポーズ(後から調べると智拳印と言って智慧を象徴すると知りました)をしていたり、孔雀に乗っていたり、快慶が作成していたりととても興味深く、「何だか凄く細かい技巧の作品」という今までの仏様のイメージが「人の考えが一体一体に詰まっている、丹精込めて作られたもの」というものに変わりました。高野山全体での感想は、「日本人より外国人の方が多いな」というものでした。あちらこちらで外国語が聞こえてくるというのは和歌山市内では中々無いもので、東京や京都などの気分になりました。「今話題のインバウンドか」、という気持ちにもなりました。マナーの悪い外国人が多いという問題で SNS が騒がしいような印象がありましたが、とても真剣に参拝している方々ばかりで心が温かくなったのを数日経った今でも覚えています。和歌山に住んでいる者として、もっと魅力を知ってほしいと烏滸がましくも思いました。以上が高野山研修を終えての感想です。時間が過ぎると価値観が変わり、初めて行った 3 年前と違った感想が出てきたことを纏めながら感じました。中々出来ない体験をしたからというのもあるかと思います。また数年後、高野山を訪れて違う感動の感想が出るのか、はたまた同じような気持ちになるのか、疑問が生まれるのか。再び訪れたいと強く感じました。

1 年普通科　　高野山研修での学び

今回私は英語部として高野山研修に参加しました。最初に研修について聞いた時はあまり興味がなく、前向きな気持ちで参加できるか不安でした。ですが、事前学習で世界遺産や高野山の魅力を勉強したことにより自ら高野山研修に行きたい、学びたいと感じるようになりました。高野山研修で特に印象に残っているのは昼からの現地学習でした。世界遺産マスターさんの熱い語りに答えられるように私たちは真剣に学び、時にはクイズに必死になって楽しみました。金剛峯寺の中門に置かれた 4 体の像の中で、中にあるふたつの像にはそれぞれトンボとセミが胸の辺りに付いていてその理由について学んだのがすごく印象に残っています。トンボがついているのはトンボが「勝ち虫」と呼ばれており、前にしか進めないトンボの性質を掛けて勝ちに行くと言う意味が込められていることを知りました。さらに、セミのどこまでも広く響き渡る声を広い範囲を見守ることとして表していることが分かりました。像一つ一つにたくさんの思いが込められているのを知り、ワクワクしました。和歌山県民なのに何も知らずに今まで生活していたのを後悔しました。高野山についての知識を得ただけではなく、マスターさんとチームの子達とのコミュニケーション能力を向上することができる機会となりました。私にとって今回の高野山研修は自分の内気さを少し改善できた良い機会となりました。あまり話したことがない子や現地での人達に積極的に質問し、クイズに答え、学びを得ることができて嬉しかったです。

また、ボランティア活動というものを今回初めて経験しました。女人道の一部をスコップで溝を掘り起こし、歩きやすくするための整備をしました。初めてのことでバタバタしながらの作業でスムーズに活動を行うことが出来なかったのが後悔です。しかし、たった 30 分だけの作業でも世界遺産を大切に受け継ぐことが出来たのかなと思いました。雨の影響もあり、作業がしにくい中、全員で協力して高野山を守る貴重な経験で協調性を持つことが出来た気がしました。帰宅後、家族に高野山研修について話しました。現地で学んだ知識やボランティア活動のやりがいを伝えたことで高野山研修に行って良かったな、貢献できて嬉しいと改めて感じました。来年も機会があれば参加したいです。

1 年普通科　　現地で感じた学びの深さ

私は今回、英語部の活動の一環として高野山研修に参加しました。世界遺産マスターさんから直接お話を聞いたり、実際に女人道を歩いたり、道普請の清掃活動を行ったりする中で、多くの学びを得ることができました。その中でも特に印象に残り、学ぶことが多かったのは道普請の活動でした。清掃の内容は、大門付近の側溝や水を流すための溝に詰まった石や落ち葉を取り除いたり、流れ落ちた土をへこんでいる箇所に運んで固めたりするという、一見地味にも感じられる作業でした。しかし、こうした地道な作業こそが世界遺産を支えている大切なことなのだと、実際に体を動かしてみて強く感じました。自分たちが訪れる場所をきれいに保つことの大切さを実感し、観光地として多くの人が訪れる一方で、地域の人々が環境を守り続けているからこそ、あの落ち着いた雰囲気や美しい景観が保たれているのだと思いました。信仰の場を支える「陰の努力」の尊さを身をもって学ぶことができた、貴重な経験でした。また、女人道を歩きながら世界遺産マスターさんからかつて女人禁制であった高野山が明治時代に解禁されるまでの歴史や背景についてお話を聞くことができ、当時の女性たちの思いや社会のあり方に興味が湧きました。もともと歴史を学ぶことが好きだったので、女人道や女人堂、奥之院、金剛峯寺での説明をとても興味深く聞くことができ、そういった面でも今回参加できて本当によかったと思います。

現地で強く感じたのは、実際に体験することの大切さです。事前学習でも女人道や道普請の話は聞いていましたが、実際に歩いてみると想像以上に道が険しく、清掃作業の大変さも身にしみて分かりました。話を聞くだけでは分からないことが多いのだと改

めて実感し、現地に行ったからこそ昔の女性たちの気持ちや高野山の歴史をより深く理解できたように思います。今回の研修を通して、私は世界遺産の保全に強い関心を持ち、守っていきたいという気持ちが生まれました。これからも実際に現地に足を運び、自分の目で確かめて学ぶことを大切にし、今回の経験を今後の学びに生かしていきたいです。

１年環境科学科　　高野山研修に参加して

今回、僕は昨年の「熊野古道」に引き続き次世代育成事業として「高野山」研修に参加しました。熊野古道と高野山はともに「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されています。今回の活動内容は主に、参詣道ウォーク・道普請・現地学習（壇上伽藍・金剛峯寺）の三つです。

まず、参詣道ウォークでは実際に過去に参詣道や修行道として使われていた女人堂から大門までの山道を歩きました。世界遺産マスターの方が案内してくれたのでいろいろなことを学びながら歩くことが出来ました。例えば、昔は高野山は女人禁制だったこと。女性は高野山に立ち入ることが許されていなかったため各地からの参詣道には女人堂があったそうです。また、高野山は標高約八百メートルの場所にあります。周りは山に囲まれているため、高野山からは麓を見ることができません。完全に隔離された地となっています。

次に、道普請を行いました。参詣道は地面が土です。雨が降ると流れてしまいます。そのため、定期的に整備する必要があります。しかし、世界遺産であるためアスファルトなどで整備することなどできません。そのため、水が流れるように促している側溝などから流れた土を掘り上げ、削られたところに土を入れ踏み固めるという作業が必要です。この作業は、これからも高野山と周辺の参詣道を保全していくために欠かせません。地元和歌山の世界遺産の保全に関われたことをうれしく思っています。

さらに、現地学習でも多くのことを学ぶことが出来ました。金剛峯寺及び壇上伽藍の建物の多くは数々の落雷等による火災で再建されています。昔から信仰の対象として多くの人に愛され続けてきたため何度焼けてもその都度建て直されてきたのだと思います。高野山・熊野は仏教と神道と山岳宗教が重なっている珍しい信仰の場です。世界遺産は過去の形がそのまま残っているからこそ価値のあるものです。和歌山が誇る世界遺産を未来へと守っていかなければいけないと強く感じました。今回世界遺産の修繕に参加できたことは多くの学びを得ることが出来ましたし、これからの人生に何か役に立つことだろうと思います。

また、短い時間でしたが「高野紙」について学ぶことができました。和紙も世界文化遺産に登録されている日本が誇る文化です。高野紙も昔は農家が冬の畑仕事ができないときに和紙の生産を行っており、多くの職人がいたそうです。しかし、職人の高齢化による減少や洋紙の普及、大量生産への移行などが理由により高野紙の生産者も一人となっていってしまいました。去年からの和紙の活動で、手漉き和紙を途絶えさせないためにどうすればいいかと外国人への紹介を行ってきました。大切な日本文化の一つを残していくことも未来へと残していかなければならないと改めて思いました。

今回の次世代育成事業では様々なことを学び、考えることができてよかったし、楽しかったです。今回の経験をこれからの生活に活かせたらいいなと思います。

１年環境科学科　　高野山研修に参加して

僕は今回の高野山研修を通して、世界遺産の偉大さと守り抜いていく大変さを改めて感じました。今まで、高野山と聞いても、ただ有名で伝統のある観光地としか思っていませんでした。しかし、実際に行って世界遺産マスターの方から話を聞いていると、1000年前の人々の精神や信仰を深く知ることができました。また、高野山では道普請の活動をしました。道の溝の落ち葉や木などを取って綺麗にしたり、道へ土を流して道を補強したりしました。僕たちがしたのは長い長い道のほんのちょっとでしかないところでしたが、とても大変でした。この人数でやってもこの程度かと思ってしまうほどでした。だから、この道すべてを綺麗にして守り抜いていくのは本当に大変なことだなと思いました。1000年もこの道を守り抜いてこれたのは、その時期に生きていたたくさんの人の地道な作業のおかげだと思うと、人々の力は本当に強いものだなと思いました。僕たちが歩いてきた道も、昔の誰かが直してきた道だと考えると、当時の人と繋がっているような気がしました。1000年も続いてきた伝統ある道をいつまでも守り抜いていくためには、本当にたくさんの努力と人の力が必要だなと思いました。僕も今回体験し

て、このような形で世界遺産に関わるのも面白いし、大切なことだなと思いました。歴史のあるものを守り抜いていくという活動の大変さや楽しさを知って、これからもこのような活動をしていきたいなと思いました。

１年環境科学科　　高野山研修に参加して

僕は今回の高野山研修で世界遺産を守ってゆくことの難しさをとても感じました。道普請活動では、世界遺産の熊野古道の一部を掃除して綺麗にしました。短い距離を綺麗にするだけでもかなりの時間がかかって大変でしたが、自分が世界遺産の一部を綺麗にして守っているという実感が湧き、とても誇らしい気持ちになりました。今回僕たちが掃除した範囲はごくわずかであって、道全体を綺麗に保っていくことはとても難しく、いかに今までいろいろな人によって守られてきた大切なものなのだと感じることができました。高野山自体を訪れることはあるのですが、お寺の深い歴史だったりを学ぶことができる機会は中々できないので、とても良い機会になりました。次、高野山を訪れた時もまた違った視点で観光をすることができるなと感じました。その場所の歴史を少し知っておくだけで、観光をする時、より楽しむことができるのだと思います。和紙、高野紙に関しても、本場の人から直接話を聞くことができ、さらに学びが深まりました。この研修でいろいろなことを学ぶことができ、世界遺産に触れることができました。今後もこのような活動を続けていきたいと思います。